



学校自己評価の
充実に向けて



平成14年3月
三重県総合教育センター

平成 13 年度の取組から見えてきたこと

平成 13 年度の取組から見えてきたことを、「○：よい点」、「▲：改善が必要な点」としてまとめました。

◇ 取組課題の選び方

- 教育課題や学校の専門性につながる取組課題や実践取組項目を設定している。

例えば

- ・開かれた学校づくり
- ・基礎学力の向上
- ・生徒の適性に合った進路指導
- ・教員の資質の向上
- ・児童・生徒の個別目標の達成
- ・資格取得の充実

等

- ▲ 分掌ごとの課題を取組課題として設定しているが、その課題と教育目標とのつながりが明確にされていない

◇ めざす姿のとらえ方

- 学校教育目標やめざす姿をより具体化した教育活動に取り組んだ後のあるべき姿を明確に示している。

◇ 基準の作り方

- 具体的な数値やスケジュールを用いて基準を作成している。
- 現状を 1 とし、あるべき姿を 5 とするなど評価基準の工夫が見られる。(実践例 3 頁参照)
- ▲ 「ほぼ」、「あまり」、「だいたい」などの抽象的な言葉を使っている。

◇ 学校経営との関連

- 学校自己評価が学校経営の中に位置づけられている。(実践例 5～7 ページ参照)

主な実践取組項目の推移 (数値は校数)

実践取組項目	12 年度	13 年度
遅刻防止・時間厳守	24	30
進路指導充実	0	27
授業内容・教材の開発	8	22
環境美化	20	20
人権教育	3	16
行事、生徒会活動充実	0	16
学力向上	0	15
挨拶の励行	13	13
生徒指導	3	11
図書館教育充実	0	8
読書指導充実	0	7
クラブ活動の充実	0	7
光熱水費等の削減	7	7
保健安全指導	0	6
退学減少	5	5
安全教育	0	5
シラバスの作成	0	5
教育相談の充実	0	4

◇ 中間評価

- 中間評価を受け、評価基準や評価方法等、学校自己評価の取組そのものについても見直しが図られた。(実践例 11 頁参照)
- 中間評価を複数回設定している。
- ▲ 判断・評価したことが教育活動の見直しに生かされていない。
例えば
評価結果が生徒の側だけのことで終わり、教育活動の見直しにつながっていない。

◇ 公表の仕方

- ホームページを利用して、一般県民に広く公表しようとしている。(11 校が計画に明記)

実践例の見方

学校自己評価は、それ自体が目的ではなく、また学校自己評価のための独自の目標を設定し実現していくものでもなく、あくまで学校の教育目標の実現に向け、教育活動がどこまで有効に行われたのかを見直し、教育活動の更新を図るためのツールです。ですから、その計画や報告においても、分掌ごとの取組課題をまとめるだけでなく、学校マネジメントに位置づけていくことが大切になってきます。

次ページから掲載する実践例においては、学校自己評価をそのように学校マネジメントの中に位置づけようとしているものや参考となりそうなシート、実践方法等について掲載しました。形式ではなく、その奥にある考え方を参考にして、平成 14 年度の取組をより一層充実させてください。

※ 学校自己評価についての参考資料がセンターのホームページに掲載されていますので、ご覧下さい。(URL <http://www.mpec.jp>)

実践例

<基準の作り方に関する実践例>

①評価基準を作成する際に、いろいろな取組の成果を反映させ、総合的に判断できるよう工夫して数値化している

具体的取組方策	①職員会議で、教職員の意思統一を図る。 ②家庭訪問を実施し、保護者のニーズ・希望を知る。 ③児童・生徒の実態把握を行う。 ④家庭・医療・学校でそれぞれ個別目標の案を作成し、個別目標を設定する。 ⑤個別目標検討会を行う。 ⑥個別目標報告会を行い、全教職員の共通理解を図る。 ⑦年間指導計画の作成を行う。 ⑧年間指導計画をもとに、実践を行う。 ⑨年度の中で、保護者と担任で個別目標の再検討を行う。 ⑩年度末に家庭・医療・学校で、それぞれ分担した個別目標の達成評価を行う。 ⑪保護者と担任の間で達成評価を検討・協議し、決定する。 ⑫全教職員で個別目標達成評価報告会を行う。 ⑬全体達成率を算出し、評価を行い、関係者に報告する。 ⑭個人ファイルへのファイリングを行う。															
評価基準	<table border="1"> <thead> <tr> <th>基準</th> <th>目標達成度</th> <th>全体達成率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>ほぼ達成した</td> <td>75~100</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>おおむね達成した</td> <td>50~75</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>やや不十分である</td> <td>25~50</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>不十分である</td> <td>0~25</td> </tr> </tbody> </table> <p>全体達成率 = $\frac{\text{達成された個別目標数}}{\text{全個別目標数}} \times 100$ (%)</p>	基準	目標達成度	全体達成率 (%)	4	ほぼ達成した	75~100	3	おおむね達成した	50~75	2	やや不十分である	25~50	1	不十分である	0~25
基準	目標達成度	全体達成率 (%)														
4	ほぼ達成した	75~100														
3	おおむね達成した	50~75														
2	やや不十分である	25~50														
1	不十分である	0~25														

②目標の設定に際して、現在の状況を明らかにしている

<具体的教育活動>	<基準>目標を5として現在の状況
①「開講希望講座」の調査と調整	5 4 3 ② 1
②生徒・職員の補習授業への取組状況	5 4 ③ 2 1
④補習授業受講者の調査結果	5 4 3 2 ①

③基準の設定に際して、あるべき姿になるまでの必要な期間を設定するとともに、本年度の達成目標を設定している

学校教育活動自己評価システム重点課題別評価 (PLAN) シート (No. 4)

平成13年度重点課題	喫煙防止	校務分掌	
		担当者	
関連する本校教育目標の番号	I	関連する本校学校努力目標の番号	2
<input type="checkbox"/> 新しい課題 <input type="checkbox"/> 部分的に変化してきた課題 <input checked="" type="checkbox"/> 継続課題 (平成 年度から)			
到達基準	I	(現状) '98年度 9件、'99年度 3件、'00年度 17件、'01年度 10件(1学期) 今年度すでに 10件と去年の50%を越している。	
到達基準	II	'98年度~'00年度 平均10件である。 今年度すでに 10件	年間目標 10件
到達基準	III		年間目標 5件
到達基準	IV		年間目標 3件
到達基準	V	(あるべき姿) もちろん、校内・校外喫煙0件が理想であるが、家庭・地域・社会状況を考えるとかなり困難なところまで達している。 しかし、'99年度 3件という時期もあり、啓発していく取り組みは必要である。少なくとも校内0件を目指す。	
具体的な取組	・SHR、LHR、各授業、全校集会、学年集会、三者懇談会、PTA懇談会等での啓蒙・啓発活動。 ・校内巡視、校外補導		
本年度未達成目標	II	あるべき姿になるまでの必要な期間	5年

<学校経営との関連に関する実践例>

実践例の **A** **B** **C**は、すべて同じ学校での実践例の一部です。

A 全体像

1. 教育方針
自然と勤労を愛し、豊かな感性と思いやりの心を育て、夢と感動を与える教育の実現をめざす。
2. 努力目標
(1)豊かな人間性を養う。
(2)学力の充実、向上を図る。
(3)進路指導の充実に努める。
(4)特色ある学校づくりに努める。
3. 学校（教育）をとりまく社会的環境等
(1)21世紀のキーワード 「人口」「食糧」「環境」「人権」「国際化」等
(2)経済社会の現状 「右肩上がりの経済成長の終焉」「産業の空洞化」「終身雇用制度の崩壊」「学歴社会崩壊の兆し」「少子高齢化社会の進展」等
(3)教育改革の視点 「自由競争」「市場原理」「説明責任」「開かれた学校」「教職員の意識の変革」「組織の見直し」「プロセスの見直し」
4. 本校のビジョン
本校は平成16年に創立百周年を迎える。この歴史・伝統と農業・家庭のもつ教育機能や教育力を生かし、主体者である生徒の満足度の向上と教職員のやりがいのある「専門高校」としての教育活動をめざす。これまで推し進めてきた「小人数教育」をより一層充実させ、保護者・県民・地域住民に説明し、支持・信頼される学校づくりに取り組む。
また地域に開かれた学校をめざし、異校種間での交流学習や外部教育力の導入など、地域との連携を図るとともに、専門高校の拠点校としてリーダー的な教育活動を展開する。
5. 具体的な取組み
(1)平成13年度取組み（本年度中に成果を得ることが可能なもの）
・異校種間での交流学習や市民開放講座を充実させ、「開かれた学校づくり」をより一層推進する。
・生徒指導・教育相談や人権教育を充実するため、研修機会を増加し中途退学者を減少させる。
・わかる授業、できる授業を確立し、生徒にとって満足度の高い授業を展開する。
・実力テスト、漢字テスト等を実施し生徒の基礎学力の定着と向上をめざす。
・各科、各コースにおいて資格取得に向けた取り組みをより一層推進する。
・本校の教育方針と内容（農業・家庭等）を示し、興味関心の高い生徒の入学確保に努める。
・学校自己評価システムを充実・確立し公表する（学校評議員、PTA役員）。
- (2)平成14年度以降の取組み（ある程度の時間が必要なもの）
・農場の整備を推進する（276aの本郷農場と615aの諸戸山農場を1本化し、効率化と職員の協力体制を図る）。また1000aの演習林の活性化を図る。
・農場の整備を進め県民に開放する。
・関係機関との連携を深め本県農業の担い手、起業家の育成に繋がる教育を進める。
・関係機関との連携と教育課程を工夫し、多様な生徒のニーズに応える就職・進学指導等進路指導体制を充実する（全コースにおけるインターンシップの導入）。
・グリーン購入の拡充とISO14001の取得をめざし、また太陽光発電施設の設置を図り環境教育を充実させる。また、分別を徹底するなど校内美化に努める。
・生徒の自主性を育む観点から部活動加入率を向上させ、全国規模の大会出場と活躍をめざすなど部活動の活性化を図る。併せて施設・設備（部室、トレーニングルーム等）を充実させる。
・学習者・県民の期待に開かれた学校づくりの推進（図書館開放事業、自己評価システムの改善・授業公開の拡充、シラバスの発刊等）。
6. 課題
(1)特色ある学校づくり、開かれた学校づくりのための学校運営組織のあり方と見直し。
(2)果の進める学校再編活性化計画と本校の「農業」「家庭」の学科の在り方と教育内容の見直し。
(3)学校週5日制に伴う教育内容と学校行事等の在り方と見直し。
(4)「小人数教育」のより一層の推進のため、在り方見直しと教職員の職務上の負担増。
(5)総合的な学習の時間充実のための異校種間交流の在り方、持ち方。
(6)学校創立百周年記念事業校内推進委員会の機動的な活動の推進。

B 課題別評価表

課題別評価表

取組課題	多様な社会に適應できる生徒の育成	担当者	責任者
継続課題の更新方策確認		実態把握	
めざす姿	・授業空間を大切にする意識の高揚 ・家庭や社会におけるマナーを養う。 ・判断力・実践力を養う。 ・資格を取得させる。 ・地域社会との交流	・授業開始のチャイムが鳴っても、自分の席に着いていない、教科書を机の上に出していない生徒も見られる。 ・目上の人に対する言葉の使い方ができない。又、マナーに欠け、日常の行動においても自己中心的である。	
教育具体的活動	1, 各クラスで勉強する雰囲気作りに取り組む。 2, 教室美化・整備 3, 家庭クラブ活動の充実 4, ワープロ検定、秘書検定、被服・食物検定に取り組む	・家庭クラブ活動にクラブ員が自主的に参加していない。 ・物質的に満たされているが目的を探ることが苦手な生徒が多く、進学、就職に向けて将来の目標を持ち、自分さがしをしている生徒が少ない。	

→具体的な基準←		基準	
1, 各クラスで勉強する雰囲気作りに取り組む。	5	全ての生徒が勉強に取り組む姿勢になった。	
	4	ほとんどの生徒が勉強に取り組む姿勢になった。	
	3	勉強の大切さをLHRに全員で話し合った。	
	2	前向きに勉強する事の意味を考えるようになった。	
	1	勉強しなさい。と注意を受けた。	
2, 教室美化・整備	5	各自が机の上のまわり、教室空間の美化に努めるようになった。	
	4	ゴミがおちていたら、拾って捨てるようになった。	
	3	黒板、その周りを授業終了後きれいに拭くようになった。	
	2	掃除後、教室の点検を指示された。	
3, 家庭クラブ活動の充実	5	全ての家庭クラブ員が活動した。	
	4	ほとんどの家庭クラブ員が活動した。	
	3	約1/2の家庭クラブ員が活動した。	
	2	一部の家庭クラブ員が活動した。	
4, ワープロ検定、秘書検定、被服・食物検定に取り組む	5	100%近い生徒が検定に合格した。	
	4	80%近い生徒が検定に合格した。	
	3	50%近い生徒が検定に合格した。	
	2	30%近い生徒が検定に合格した。	
	1	30%以下の生徒が検定に合格した。	

→中間評価←		9月1日 現在		月 日 現在	
活動の確認		達成率	評価	達成率	評価
1, 各クラスで勉強する雰囲気作りに取り組む。	授業、各検定に対して勉強できた	80%	4		
2, 教室美化・整備	掃除を真面目に行うことができた。	80%	4		
3, 家庭クラブ活動の充実	プロジェクト発表に対して意欲的に取り組めた。	90%	4		
4, ワープロ検定、秘書検定被服・食物検定に取り組む	各検定に合格することができた。	85%	4		

→評価←		実施状況				
教育活動の確認		5	4	3	2	1
1, 各クラスで勉強する雰囲気作りに取り組む。	授業、各検定に対して前向きに学習できた。が得意な教科、科目の克服が困難な生徒が一部見られた				○	
2, 教室美化・整備	掃除を真面目に行うことができたが、少々ゴミの落ちているクラスもあった。				○	
3, 家庭クラブ活動の充実	プロジェクト発表に対してデザイン科1～3年生全体で意欲的に取り組むことができた。			○		
4, ワープロ検定、秘書検定被服・食物検定に取り組む	各検定に、積極的に取り組み成果をあげることができた。			○		

更新方策提案
1年間の各教育活動を検討した結果、評価の達成率に、ばらつきがあるため、今後も継続的に同教育活動を具体的な基準とし、デザイン科の取り組み課題である「多様な社会に適應できる生徒の育成」を目指したい。

E PDCAサイクル確認表

① PDCAサイクル確認表A

取組課題	行事の見直しによる授業時間の確保	担当者	
		責任者	
計	継続課題の更新方策案確認 <input type="checkbox"/> 更新方策案の確認を行った	実態把握	■ 課題に関連した実態把握を行った ■ 次の人たちから意見を聞いた <input type="checkbox"/> 児童生徒 <input type="checkbox"/> 保護者 <input type="checkbox"/> 地域の人 <input type="checkbox"/> 学校評議員 ■ 教職員
	課題の設定 ■ 同課題で取り組む <input type="checkbox"/> 課題を修正して取り組む <input type="checkbox"/> 新たな課題で取り組む		
	めざす姿の設定 ■ 実態把握を基に、つきたい力や態度等、具体的に設定した		
	具体的教育活動設定 <input type="checkbox"/> めざす姿を達成するための教育活動を設定した		
画	評価のための具体的な基準作成 <input type="checkbox"/> 各具体的教育活動に対する数値目標を設定した <input type="checkbox"/> 評価のための基準を作成した ■ 教育活動及び評価の計画を次の人たちに発信した ■ 児童生徒 ■ 保護者 <input type="checkbox"/> 地域の人 <input type="checkbox"/> 学校評議員 ■ 教職員		
	実践 ■ 計画どおり実践を行った <input type="checkbox"/> 計画どおり実践を行えなかった <input type="checkbox"/> 情報発信のために実践記録や資料等を保存した	中間評価 ■ 評価基準に従って活動を確認した ■ 次の人たちから意見を聞いた ■ 児童生徒 ■ 保護者 <input type="checkbox"/> 地域の人 <input type="checkbox"/> 学校評議員 ■ 教職員	修正 ■ 修正は不必要 <input type="checkbox"/> 教育活動を修正した <input type="checkbox"/> 基準を修正した
評	評価の実施 <input type="checkbox"/> 活動状況を確認した <input type="checkbox"/> 達成度を確認した ■ 次の人たちから意見を聞いた <input type="checkbox"/> 児童生徒 ■ 保護者 <input type="checkbox"/> 地域の人 <input type="checkbox"/> 学校評議員 ■ 教職員		
	評価結果の検討 ■ めざす姿や基準の妥当性を判断した <input type="checkbox"/> 教育活動の妥当性を判断した ■ 次の人たちに評価の結果を発信した <input type="checkbox"/> 児童生徒 <input type="checkbox"/> 保護者 <input type="checkbox"/> 地域の人 <input type="checkbox"/> 学校評議員 ■ 教職員		
更新	めざす姿や基準の見直し <input type="checkbox"/> 修正する必要はない ■ 修正する必要がある		
	教育活動の見直し ■ 良かった点とその根拠を明らかにした ■ 悪かった点とその根拠を明らかにした		
	更新方策案の決定 <input type="checkbox"/> 更新の方向性を検討し、まとめた <input type="checkbox"/> 教育活動の具体的な更新方策を検討し、まとめた <input type="checkbox"/> 学校としての体制や教育環境の再設計を検討し、まとめた ■ 次回も同課題で取り組む必要がある <input type="checkbox"/> 次回は同課題で取り組む必要はない		

F 課題別評価表

② 課題別評価表

取組課題	行事の見直しによる授業時間の確保	担当者	
		責任者	
継続課題の更新方策案確認	新規設定	実態把握	
めざす姿	授業時間と学校行事のバランスのよい学校運営	週6日制の時代のまま行事をしている現状がある。完全週休2日制に伴う授業時間の減少により学力低下が心配されている。生徒の学力保障の面からも行事の見直しが求められている。	
具体的教育活動	行事の精選		
<具体的な基準>			
具体的教育活動項目	教職員によるグループ研修を実施する。又生徒、保護者から意見を聴取する。このことにより残すべき行事と改善することにより実現できる行事の確認をする。		
活動の留意点	全職員の意思統一。残すべき行事と改善することにより実現できる行事の確認		
達成基準	5	平成14年度より実施する。	
	4	全職員で再度検討し、生徒、保護者等に知らせる。	
	3	グループ代表による検討会を持ち教務部がまとめ提案し意見を聞く。	
	2	教職員によるグループ研修を実施する。又生徒、保護者から意見を聴取する。	
	1	全職員が行事見直しの検討の意識を持つ。	
<中間評価>			
具体的教育活動項目	9月末現在		
活動の確認	職員のグループ研修	10名程度の小グループごとに行事の再確認をし、多くの意見を頂戴した。この意見を集約して、次回も小グループでさらに必要な行事を精選し、かつ適正時間をも考慮した学校行事をめざし、開かれた学校にしていこう。	
評価	全職員が行事についての意識改革を深める為グループ研修をし、本校として継続すべきものの内容が検討できた。本校のさまざまなことを考えると「各行事の数を減少させるよりは時間の短縮の方向で考える」との方向づけができた。		
<教育活動・基準の修正>			
月/日	具体的教育活動項目	教育活動の修正	基準の修正
<年度末評価>			
具体的教育活動項目	達成度	活動の実施状況	次年度への課題
活動の確認	職員のグループ研修 保護者（PTA役員との懇談）	4	学期末の保護者会や地区懇談会 PTA役員会及びPTA広報委員会等での懇談と意見交換
総合評価	学校行事をしっかりとさせることは授業にもよい影響を与える。また社会規範や道徳心を持ち、社会人として立派な行動や態度を身に付けさせることが本校のめざしているものである。本校の行事が静粛に混乱なく出来ることは、学年団および全職員が集団行動を重視する姿勢が功を奏していると考えられる。このことから、体育祭等の主要な行事は継続すべきものむしろ増やしてもよいのではないかと考える。次年度の課題に上げた、時間の使い方の改善が本校にとっての課題と位置付け改善を計っていきたい。		日常的な行事での時間の使い方の改善を計り、授業時間の確保に努める。

＜中間評価に関する実践例＞

中間結果を受け、教育活動の取組の成果をよりの確に判断するため、評価基準の見直しを行っている

具体的教育活動	「モーニングクラブ」(遅刻指導)の実施 ・遅刻10回で入会 ・連続10日間生徒指導室へ朝のあいさつ ・昼休みの奉仕作業 ・保護者へ連絡、意見交換 ・遅刻18回で再入会、生徒指導部長訓戒(保護者召喚)
取組みの経過	4月:「モーニングクラブ」の取組みについて、保護者に意義を説明し協力を依頼 集会やHRで生徒への取組みの意義を説明 6月:学校自己評価の達成基準について検討 8月:一学期末の結果集計 9月:一学期末の結果を元に二学期の取組みについて検討 10月:中間評価
生徒等の変化	「モーニングクラブ」も2年目を迎え、生徒に浸透してきた。また、昨年、遅刻総数を半減することができたこともあり、全体の取組みとして定着してきた。
中間評価	一学期末現在 遅刻総数 787名。(1人約0.79回) (前年度一学期末 1人約0.97回) 「モーニングクラブ」入会者 3名 昨年よりやや減少している状況にある
教育活動の修正	二学期に入ってややマンネリ化しつつあるので、再度、集会やSHRなどで基本的な生活習慣を身につけることの必要性を指導する
評価基準の修正	%による達成基準より、遅刻者総数のほうが現状を把握しやすいと考え、次のように達成基準の設定を修正する 5 遅刻者総数が2000人未満、かつ遅刻常習者(遅刻回数10回以上)が30人未満 4 遅刻者総数が2500人未満、かつ遅刻常習者(遅刻回数10回以上)が45人未満 3 遅刻者総数が3000人未満、かつ遅刻常習者(遅刻回数10回以上)が60人未満 2 遅刻者総数が3500人未満、かつ遅刻常習者(遅刻回数10回以上)が75人未満 1 遅刻者総数が3500人未満、かつ遅刻常習者(遅刻回数10回以上)が75人以上

平成14年度の取組に向けて

平成14年の取組を開始するにあたり、次の観点に留意して計画を立ててください。

◇ 学校経営との関連

- 学校としての共通理解が図られているか。
- 学校全体としての組織的な取組となっているか。
- 評価結果を学校経営につなげようとする流れや仕組みができていないか。

◇ 管理職の責任

- 校長としてのビジョンが明確になっているか。
- 評価に対する危機的な意識を払拭できているか。

◇ 教育活動との関連

- 1つの取組課題に対して、自分たちの分掌との関連を考え取組もうとしているか。

例えば「遅刻防止・時間厳守」を実現させていくために、生徒指導部の取組だけでなく、教務部では「わかりやすい授業」を目指して研究授業に取り組み、進路指導部では「進路意識の確立」を目指して資格取得に取り組みなど。

◇ 取組課題の選び方

- 教育目標と取組課題との関連性は明確か。

教育目標を課題に、そして課題を活動へとブレイクダウンして評価が可能な形で取組課題を設定する。
(詳細については、『学校自己評価の具体的手法』の2・3ページを参照)

- 取組課題が焦点化されているか。
- めざす姿は具体的にになっているか。

◇ めざす姿の達成度を判断するための工夫

- 具体的で分かりやすいものになっているか。

◇ 基準の作り方

- 達成基準が明確なものになっているか。

◇ 学校自己評価のとらえ方

- 評価結果を実態把握や具体的教育活動の更新につなげようとしているか。

◇ 中間評価

- PDCAサイクルによる自己評価が、適宜実施されるようになっているか。

◇ 公表の仕方

- 生徒や保護者、地域の人たちの理解と協力を得るため、積極的に公表しているか。
- 計画や教育活動を公表しているか。
- ホームページなどを活用し、より広く意見を求めているか。

